

# 糖尿病治療薬で心筋梗塞のリスク

# 「隠れ低血糖」に用心

17日までは全国糖尿病週間だ。生活習慣病に関わる2型糖尿病では、来春、尿に余分な糖を排出する新薬がゾクゾクと登場する見込み。糖尿病治療に新風を吹き込むとの期待は高いが、そもそも従来の

飲み薬はどうなのか。単に医師任せで飲んでいると、「隠れ低血糖」といった事態も起こりかねないという。専門医が警鐘を鳴らす。

## 【高容量SU薬】

2型糖尿病では、血糖を抑制するインスリンの働きが悪くなり、インスリン分泌も低下する。そのため、主な治療薬として、インスリン分泌を促進する「スルホニル尿素（SU）」薬が長年使用されてきた。薬価も1錠10～20円程度と安いのが利点。

ところがSU薬は、血中の糖分が少なくなると起こる「低血糖」を引き起こしやすい。日本糖尿病学会専門医の「しんくりニック」（東京都大田区）の辛浩基院長（顔写真が指摘する）

「SU薬を処方するときには、たとえば「グリメピリド」（一般名）の1錠0.5mgの少量を他の薬と合わせるのが基本です。しかし、医師によっては、1錠3mgの高容量を処方しているケースがいくつもある。結果として、ご本人が気づかない「隠れ低血糖」の状態に陥り、心筋梗塞などによる死亡リスクを高めていることがあ



る（以下）



## 「血糖値測定を」

隠れ低血糖の症状としては、別項を参考に、この状態を放置すると、心臓の要となる冠動脈にダメージを与えるだけでなく、低血糖状態が悪化して突然意識を失うようなことも起る。さらに、身体の自然な仕組みで、低血糖を解消するために食欲が増し、糖尿病による食事制限をすろうとしても難しく、体重増加にも結びつく。

「SU薬を高容量飲んで体調が思わしくない人は、食事

前に近くの医療機関を受診して、血糖値を測ってもらいましょう。自己測定器を活用するのも一考です」（辛院長）  
専門医の薬のさじ加減は、そうでない医師とは異なるといふことだ。

## 「ファーストチョイス」

糖尿病の治療薬は、SU薬以外に、インスリン抵抗性改善薬、食後高血糖改善薬、速効型インスリン分泌促進剤に分類され、製薬各社の薬も多数ある。

中でも、2009年に登場したインクレチン関連薬は、膵臓（すいぞう）に働きかけて、血糖値が高いときだけインスリン分泌を促し、血糖値を上げるグルカゴンの分泌を抑える。注目度は非常に高かったが、薬価も1錠180～200円程度と高い。糖尿病治療薬は、長期間服用することが多いため、安価である方が患者にとってはメリットが大きい。

専門医は、肝臓での糖の生成を抑制する「ビッグアナイド（BG）錠」＝写真＝を使用することが多い。低血糖を起しにくく1錠9・9円程度で、患者さんへの負担が少ないからです。世界的にも治療のファーストチョイス。もちろん、高齢者などで使用が難しい人もいますが、他の治療を組み合わせて対処できます。また、早期の段階で飲み薬とインスリン注射を組み合わせたBOTという治療法もあり、選定は確実に広がっている」と辛院長はいう。

## 【隠れ低血糖チェック】

- 朝、シーツがじっとりとした汗でぬれている
- 朝方や食事前心臓が高鳴り動悸（どうぎ）がする
- 食事をすると動悸が治る
- 緊張していないのに、手のひらや脇の下などが汗ばむ
- 最近疲れやすくなった